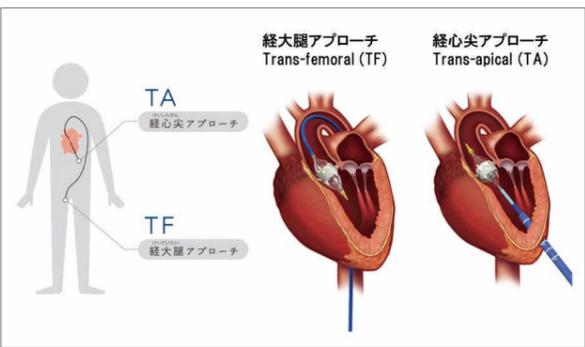


いよいよTAVIが始まります

(タビ:経カテーテル大動脈弁留置術)

総合ハートセンター センター長 たなべ かずあき
田邊 一明

当院ではかねてよりTAVI実施に向けて病院全体を挙げて準備を進めておりましたが、2018年2月14日にTAVI関連学会協議会から島根県で初となるTAVI実施施設認定を受けました。いよいよ4月からTAVIを開始いたします。



TAVI(Transcatheter Aortic Valve Implantation)とは重症大動脈弁狭窄症に対する画期的な治療法です。胸を大きく切り開いたり、心臓を停止させたりすることなく、折りたたんだ状態の人工弁を大腿動脈あるいは心尖部からカテーテルを通して大動脈弁の位置に血管内から留置します。外科的な大動脈弁置換術と比べて圧倒的に低侵襲ですので、術後の回復が非常に早く、経過が良ければ手術翌日には歩行開始し、1週間程度で退院可能です。

高齢化先進県である島根県には加齢変性に伴う大動脈弁狭窄症の患者さんが沢山いらっしゃいます。本来ならば外科的な大動脈弁置換術が勧められるものの、侵襲の大きさを考えるとどうしても開胸手術はためらわれてしまいます。そのような高齢者の方々にとって、島根県でもTAVIという最先端治療の選択肢を提供できるということは大きな福音となるはずですよ。

もしも高齢者が「動くと胸がせつ」と訴えられたらまず聴診してみてください。そして収縮期雑音が聞こえたら「せつ」と原因は大動脈弁狭窄症かもしれません。スクリーニングはそれだけで十分ですので、ぜひ当院へご紹介いただきますようお願い致します。



NEWS



CONTENTS

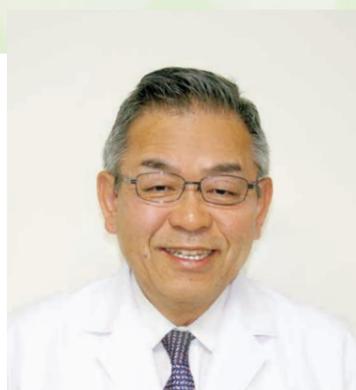
- ・ 2018年度スタートにあたって 病院長、副病院長 挨拶
- ・ いよいよTAVIが始まります





病院長 挨拶

病院長 いがわ みきお
井川 幹夫



平素より地域の医療機関の皆様方には大変お世話になっております。

病院長として、昨年度末に2期6年の任期を満了しましたが、今年度から更に1期3年の任期延長が決まりましたので、よろしくお願ひ申し上げます。

当院は、2011年度に新病棟建設、2012年度に既設病棟・外来棟の改修を終え、2017年度に高度外傷センター棟、敷地内院外薬局の新設でハード面の整備は完了いたしました。これまで特定機能病院として高度急性期医療、がん医療の推進、再生医療の充実を図り、急性期医療の要となる救急医療につきましては、2016年度当初に設置した高度外傷センターを核とし

増員・強化した救命救急センター機能により県全域を対象とし、内因性疾患対応も充実した幅広い救急医療を実施しております。重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)を4月に県内で初めて実施、がんに対しては、都道府県がん診療連携拠点病院として、ロボット支援手術の適応拡大、希少がん、小児がん対策、がん患者さんの就労支援を含む包括的ながん医療を推進します。特に、新たに指定されたがんゲノム医療連携病院として、がんに対するPrecision Medicineを開始して県内のがん医療水準の劇的な向上を目指しています。他には、拡充した周産期医療部門を稼働させ、周産期母子医療センターとしての役割を果たし、アレルギーセンターが多様なアレルギー疾患に対する組織横断的な治療を行います。

地域の医師需要を把握しながら医師派遣検討委員会を通じて透明性の高い医師派遣を行います。また、当院の卒後臨床研修センター専門研修等部門、しまね地域医療支援センターが連携して専門研修と地域枠等出身医師の義務履行との整合性を図ります。さらに関連病院と当院が医師派遣に関するクロスアポイントメント制度を運用して、医師派遣の円滑化、医師の研究及びキャリア形成支援を行います。

高度医療の提供、地域医療の最後の砦機能の維持・推進、救急医療の充実、災害医療への対応、優れた医療人の養成、附属病院医師派遣検討委員会の活動などを通じて島根県の地域医療に継続的に貢献することを今年度の目標として病院運営を行います。これからも当院が地域の中で果たすべき役割を十分認識し、地域に愛される病院となるために日々改善に努める所存ですので、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

副病院長 挨拶

本年4月より当院副病院長を拝命しました椎名浩昭です。1985年に当時の島根医科大学を卒業後、直ちに泌尿器科教室に入局しました。隠岐病院へ出向した1年3ヶ月を除き、当院で臨床・研究・教育の研鑽を積んでまいりました。その間、国立大学法人化、医局制度の役割縮小、新専門医制度開始など、いわゆる医療制度の抜本的改革を目の当たりにしました。超高齢化社会、あるいは2025年問題が取り巻く社会情勢の変化に伴い、大学病院の責務は今まで以上に地域との密接な連携を構築する事が求められています。当院のさらなる活性化を目指して、微力ながら常行一直心で尽力したいと考えています。どうか皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



しいな ひろあき
改革担当 椎名 浩昭

島根県は医師偏在による医師不足が続いています。わが国は、国民皆保険、フリーアクセスおよび均一な医療費という原則を堅持してきたことから、本来、医療格差はあってはなりません。また、どのような状況にあっても、医療機関としての最重要課題は、患者さんの安全確保です。しかも、医療安全は医療の質の向上と表裏一体で、医療経済学や医療管理学を基盤とする医療安全管理学という学問的エビデンスにより、医療安全を推進することが特定機能病院としての大学病院に求められています。患者満足(patient satisfaction)を重視した医療安全(patient safety)を推進してまいりたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



ひろせ まさひろ
医療安全担当 廣瀬 昌博

当院副病院長(経営担当)ならびに地域医療連携センター長を引き続き担当させていただくにあたり、ご挨拶申し上げます。

経営は、「方針を定め、組織を整えて、目的を達成するよう持続的に事を行うこと」とあります。この目標に少しでも貢献できるよう目の前の課題一つひとつに真摯に取り組んでいく所存です。超高齢社会に向かう今日、医療は地域医療構想、地域包括ケアという新しい医療福祉システムを構築し、機能することが不可避に求められています。この2つの柱は、医療のフローシステムとともに街づくりをするという将来の社会基盤ともなります。微力ながら、経営と地域医療という重要なキーワードを繋ぐ役割に寄与したいと存じます。ご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



さいとう ようじ
経営担当 齊藤 洋司

少子高齢化社会などによる進展に伴い、病院と地域の看看連携・多職種連携による切れ目ない生活支援がさらに重要となっています。当院看護部では『地域で信頼される質の高い看護の提供』をあるべき姿とし、急性期医療・高度先進医療・周産期医療・がん医療の充実と地域包括ケアの「見える化」のための取組みを行ってまいります。医療を提供する機能と生活の質を高める機能を強化するため、質の高い看護職の人材育成を行います。そして患者さんやご家族が納得されて在宅療養できる環境を提供するために、専門的な知識を持つ認定看護師等を中心とした医療上及び生活・ケア上の問題等の支援を、訪問看護師の方や行政の方と円滑な連携を図りながら取組んでいきたいと思ひます。皆様のご指導を頂き精進していきたく思ひますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



かんだ まりこ
職場環境改善看護の質管理担当 神田 真理子



ご報告

ダ・ヴィンチXiを利用した膀胱全摘術につきました

泌尿器科 教授 しいな ひろあき
 准教授 やすもと ひろあき
 助 教 安本 博晃
 ありち なおこ
 有地 直子

当科では2012年11月に第2世代の手術支援ロボット「ダ・ヴィンチS」を導入し、本年3月までに前立腺全摘術303例、腎部分切除術32例を行ってきましたが、昨年11月からは「ダ・ヴィンチS」に代わり第4世代の最新機種「ダ・ヴィンチXi」を用いたロボット手術を開始しました(図1)。「ダ・ヴィンチXi」では従来機種と比較し、1)正確・確実かつ迅速なポート配置の決定、2)全てのポートから内視鏡カメラの挿入が可能、3)ロボットアームのスリム化と可動性の改善、など利便性が大きく向上しています(図2)。今まで以上に機能温存、制癌性ならびに安全性が向上した手術を提供できるようになりました。

一方、浸潤性膀胱がんには、開腹での膀胱全摘除術を行いますが、出血量や手術時間から泌尿器科手術の中でも侵襲度・難易度が高い手術と認識されています。当科では、臨床研究としてロボット支援膀胱全摘除術をこれまでに5例行ない、少ない術中出血量と優れた術後回復など、臨床的有用性をすでに確認しています。この度の診療報酬改定で、膀胱全摘除術がロボット支援内視鏡手術(腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術)として保険適用となり、膀胱全摘後の尿路変向術も「ダ・ヴィンチXi」を用いて行うことが可能となりました。

前立腺がん、腎がん(小径)、膀胱がんの全てに最新鋭機「ダ・ヴィンチXi」を用いて、より低侵襲で安全・安心な医療サービスが提供できるのは、山陰地方では当院のみです。皆様の近くに泌尿器がんでお悩みになっておられる方がいらっしゃいましたら、迷うことなく当科をご紹介いただきますようお願い申し上げます。

図1)「ダ・ヴィンチS」と「ダ・ヴィンチXi」の外観・システムの相違

ダ・ヴィンチサージカルシステム



図2) 第4世代「ダ・ヴィンチXi」の利点

第4世代の最新機種「ダ・ヴィンチXi」



手術時間の短縮と安全性の向上

問合せ先 泌尿器科外来 TEL: 0853-20-2387



お知らせ

子育て世代を応援します！ ～学童保育施設の整備について～

会計課施設管理室 室長 よねはら まさたか
 米原 昌隆

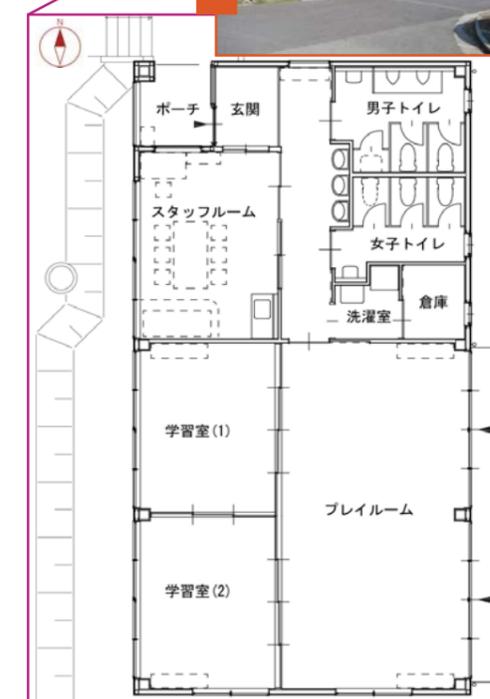
当院では、これまで教職員の子どもを対象とした院内保育所を開設し、育児しやすい病院として全国でも注目を集めてきましたが、年々増加する子育て世代の教職員からの要望に応え、この度、病院敷地内に学童保育施設を整備することとなりました。

当院が在る出雲市においては、公立児童クラブへの入会児童の増加に伴い、4年生以上の保育を断られたり、定員オーバーによる自主退所を求められる事態が発生しています。また、平日の閉所時刻は18時となっており、就業時刻が不規則な病院職員からは、学童保育までの送迎や長時間の保育などのサービスを求める声が多くあります。このような病院職員の就業状況を考慮し、今回整備する学童保育では学校からの送迎や長時間保育の実施を計画しています。

建物は鉄骨造平屋建ての構造で床面積は150㎡、既設の院内保育所南側に隣接して配置します。施設内には約50㎡のプレイルームと学習室2室を設け、間仕切りの建具を開放すると、一体的に使うことができる大空間となります。運用面では常時3人のスタッフが子どもを見守り、安全・安心な保育環境の確保と健全な育成に配慮します。

建物の完成は平成30年7月上旬を予定しており、学校が長期休暇となる夏休みからの運用に向けて準備を進めています。

当院では職員の子育てを積極的にサポートし、質の高い人材の確保や復職支援を行うことで、より良い医療サービスの提供を目指して行きます。





島大病院ニュース 2018年4月

お知らせ



島大病院ニュース 2018年4月

ご報告



ゼブラ棟2階

カンファレンスルーム「だんだん」を 研修会・講演会などにご利用ください

会計課施設管理室

ゼブラ棟「日本調剤 島大薬局」の開局に合わせて、2階に約100名を収容出来るカンファレンスルーム「だんだん」を設置しました。プロジェクター・音響設備も充実していますので、医療従事者の方々と研修会・講演会や、地域住民の方々と対象とした公開講座等に利用できます。また、4室の多目的室は10~20名程度のカンファレンスなどにご利用いただけます。パーティションの移動で部屋の大きさを変更することもできます。

当院は、これからも地域の医療機関の皆様と連携を強化し、地域の皆様に安全・安心で高度な医療を提供してまいりますので、今後ともご支援ご協力の程よろしく申し上げます。

「だんだん」ご利用方法

※医学部学内教職員

島根大学医学部のホームページ【医学部掲示版】にあるInformation【カンファレンス室一覧】から入り、グループ【ゼブラ棟】を選択してください。直接予約登録できます。

※医学部外の方

医学部会計課施設管理室総務担当へお申込みください。

出雲市塩冶町89-1(島根大学医学部 本部棟4階)

電話 0853-20-2053

注)管理運営要項に基づきご利用できない場合もございますのでお問い合わせください。



院内保育施設 「うさぎ保育所」の卒園式について

うさぎ保育所

3月16日(金)にうさぎ保育所において、5回目の「卒園式」を行いました。12名の子どもたちがうさぎ保育所を巣立っていきました。

式では病院長を始めとする来賓の方々、保護者の皆様、職員、在園児に見守られながら晴れやかな姿で入場しました。一人ずつ保育証書を受け取り、みんなの前で「小学校で頑張りたいこと」を大きな声で発表した後、保護者の方に「今までありがとうございました。」と感謝の言葉とともに保育証書を手渡しました。

「お別れの歌とことば」では、卒園児と在園児による「みんなへのありがとう」のメッセージと思い出の場面が飛び交い、式場が感動の涙に包まれました。

小さな赤ちゃんだった子どもたちがこんなにも立派に成長し、たくさんの可能性を秘めて卒園していくことをみんなが誇らしく感じました。小学校に行ってもまた、遊びに来てくれることを楽しみに待っています。

これからも院内保育所として、保護者の方々が安心して子どもを預け、仕事に専念してもらえようより良い保育をめざして、職員一同努めてまいります。



お知らせ
島大病院ニュース

平成30年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告
島大病院ニュース

平成30年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年4月

お知らせ

快適な通院・通勤環境を目指して ～駐車場の整備と運用開始について～

会計課施設管理室 室長 よねはら 米原 まさたか 昌隆

当学部ではキャンパス全体で年次的な駐車場の整備計画を立案し、平成27年度より順次整備を行っています。

平成29年度は教職員駐車場として学部側の研究棟周りに53台、病院に近い看護師宿舎北側に31台の整備を実施し、今年度4月より運用を開始しております。これにより、今まで懸案となっていた駐車場区域外や構内道路への駐車が大幅に減少し、来院される患者さんやご家族、お見舞いの方や教職員に快適な環境を提供できるようになりました。



また、患者さん専用の立体駐車場では、もともと2階に設けている「車イス専用駐車場」を11台から21台へ10台増設し、「思いやり駐車場」を9から12台へ3台増設しました。これまで来院の度にご不便をお掛けしていた、車イス使用者の方や、長い距離の歩行が困難な方にも安心して来院頂けるようになりました。

現在、キャンパス全体の駐車場は患者さん専用として508台、教職員専用として1,011台、教職員・学生・業者等の共用駐車場を652台整備しており、公共交通機関が少ない地域から来院される患者さんや教職員、通勤時間帯が不規則な病院職員にとっては重要な施設となっています。

今後もキャンパス全体の利便性を考慮した駐車場整備の実施や検討を行い、来院される皆様や教職員が互いに気持ちよく過ごせるよう、より快適な環境整備を行ってまいります。



お知らせ
島大病院ニュース

平成30年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年4月

お知らせ

がん相談支援センター

がん患者・家族サポートセンター

(がん患者・家族サポートセンター) 「がん相談支援センター」の役割

がん患者・家族サポートセンター センター長 すずみや じゅんじ 鈴木 淳司

昨年10月に第3期がん対策推進基本計画が策定され、それを受け、平成30年度より島根県がん対策推進計画が施行され、「すべての県民が、がんを知り、がんの克服を目指す」ことが目標とされています。その目標を達成するためにも、相談支援・情報提供の充実が重要とされています。

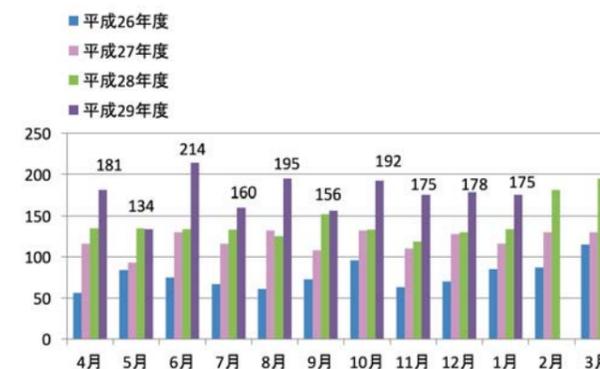
センターには、がん専門相談員が2名配置されており、患者さん・ご家族の話を伺い、適切な情報提供をしながら、不安や気がかりが少しでも軽減されることを目指しています。そのために、院内外の医療関係者、福祉関係者、就労関係の専門職との連携、がん治療体験者であるピアサポーター、がんサロンとの連携も重要であると考えています。

たとえ、がんに罹患したとしても、その人らしい生活を送るためには、患者さんを取り巻く社会全体が、がんを知り、一緒に支え合うことが必要です。そんな地域社会になるよう、島根県内各がん診療連携拠点病院がん相談支援センタースタッフ、関係機関と共に力を合わせたいと思っています。

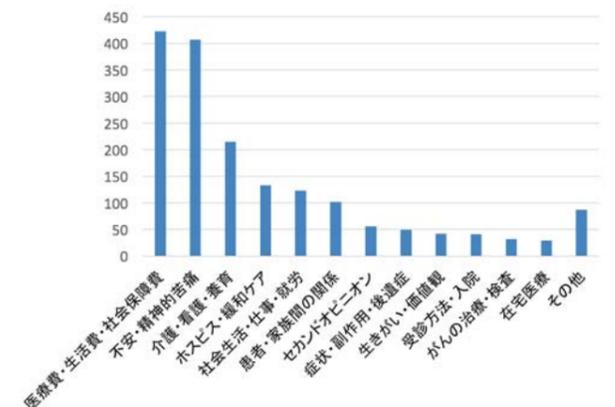
どうぞ、医療スタッフのみならず、がん相談支援センターをご紹介ください。

問合せ先 **がん患者・家族サポートセンター**
TEL: 0853-20-2518 ※面接・電話どちらでも対応させていただきます。
相談受付時間: 平日8:30～17:00

がん相談件数（～H30年1月）



主な相談内容（H29年1月～H30年1月）



お知らせ
島大病院ニュース

平成30年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ

褥瘡認定師について

褥瘡対策委員会 皮膚科 准教授 かねこ さかえ
金子 栄

皆様には日頃より褥瘡対策についてお世話になっております。昨年、当院でしばらく不在でした認定褥瘡医師を取得いたしました。褥瘡認定師とは、褥瘡に関する予防、医療の進歩を促し褥瘡医療の水準を向上させ、国民の福祉に貢献することを目的とし、日本褥瘡学会が認定する資格です。在宅療養における褥瘡の予防、治療の啓発、向上をはかるための日本褥瘡学会在宅褥瘡予防・管理師とは別の資格ですが、各地域で、連携をはかり褥瘡に関する諸問題にあたることが求められています。褥瘡認定師であれば、在宅褥瘡予防・管理師の資格もあり、在宅患者訪問褥瘡管理指導料750点の要件の一つになります。

認定師は医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士などの各職種ごとに定められ、4年以上引き続いて日本褥瘡学会正会員であり、褥瘡の予防や医療に従事し、一定のセミナーの受講証明書を有すると申請できます。

今後、さらなる高齢化(超高齢社会)により多死社会となり、そのことはつまり、多褥瘡社会の到来を意味しています。当院における褥瘡発生率や有病率は2014年をピークに減少傾向であり、また皆様のおかげで、褥瘡発生率、有病率ともに全国平均を下回っております。これからの医療における大事なスキルの1つである、褥瘡対策のため、認定褥瘡医師のいる当院へご紹介下さい。

日本褥瘡学会認定褥瘡医師

認定証
金子 栄 殿

1966年10月29日生

貴殿は日本褥瘡学会の所定の審査により認定褥瘡医師として認定されたことを証する

認定師番号 第 657 号
認定資格取得日 2017年 9月 1日
認定師資格有効期限 2022年 8月 31日

2017年 9月 1日



一般社団法人
日本褥瘡学会
理事長 川上 重彦
認定師認定
委員会委員長 安田 浩



お知らせ



外傷現場へのドクターカー派遣運用を開始しました

高度外傷センター センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明

当センターでは、2月16日(金)より外傷症例に特化したドクターカーの現場運用を開始しました。ドクターカーは、ドクターヘリと同様に現場へ医師と看護師からなる診療チームを派遣し、病院到着を待つことなく早期に医療介入を開始するための病院前診療の一つの選択肢です。特に当センターのドクターカーは、生命危機の可能性のある重症外傷を対象とし、ドクターヘリと同様にキーワード方式での要請(119番通報の内容から特定のキーワードに該当する外傷に対して消防本部から直接出動要請がかかる)方式を採用し、要請から約3分以内の出動を目標としています。運用対象エリアは、出雲市、大田市、雲南市の3市となります。当面は8時30分から17時までの日勤帯に限定した運用となりますが、今後、スタッフの充足と共に24時間対応への運用時間拡大を検討しています。より早期から高度な外傷診療を展開し、救命率および社会復帰率の向上を目指して参ります。





ご報告



テレビ会議で配信！

医学教育ファカルティ・ディベロップメントを開催しました

地域医療支援学講座 准教授 さの ちあき 佐野 千晶

当学部では、医学生の高品質な医療を実践する力を養成するため、地域医療実習を積極的に推進しています。今回は、この地域医療実習をより充実したものにすることを目的として、2018年3月9日に、医学教育ファカルティ・ディベロップメント (FD) を国際交流ラウンジで開催しました。自治医科大学地域医療学センター 地域医療部門 教授の小谷和彦先生を講師にお招きし、分野別認証を受けるに当たっての考え方や、臨床実習ならびに地域医療実習についてご講演頂きました。島根県内の大田市立病院、浜田医療センター、隠岐病院の3病院が配信病院としてご参加くださり、出席者は22名でした。自治医科大学では、全国にいらっしゃるOB、OGが、きめ細やかに若手医師を育成する徹底した屋根瓦の教育システムが有効に活かされているというお話がありました。また、臨床実習施設間の連携・協力が非常に重要といったお話もありました。今回のご講演は、医学教育分野別認証の受審を予定している大学にとって医学部評価に大きく関わってくる内容であり、教職員には聞きごたえのある有益なFDとなりました。医師の養成は、大学、また医師はもちろん、多くの医療施設、関係者、住民に支えられてこそ大きく前進します。皆様の御協力を何卒お願い申し上げます。



ご報告

ワークライフバランスを考える キャリア講義を行いました

地域医療支援学講座 准教授 さの ちあき 佐野 千晶

臨床実習をひかえた医学科4年生に、キャリア講義を行いました。医療職は高度な専門職で、生涯にわたって学習を継続することが大切です。ワーク（仕事）がライフイベントへ大きく影響する場面では、なにを頼りにどう選択したらいいのでしょうか。今回、「妻の留学」「夫の留学」といった2つのシナリオを用いて、秋田大学 蓮沼直子先生に少人数グループワークのご指導を頂きました。いつもの授業の様子とは全く異なり、当初、学生達とはまどっていました。蓮沼先生の楽しく軽快なトークによって、しだいにグループでさまざまな意見が飛び交い、議論が盛り上がりました。夫、妻それぞれのキャリア、健康状態、子供の成長、教育、父母の状況、留学期間、留学先などにより選択は大きく変わり、正解はありません。「妻の留学」と「夫の留学」とでは、選択が違い興味深い結果でした。グループワークで、お互いの意見を聞くことによって、医学生は自分が全く思いつかなかった意見が多く存在することに気が驚いていました。この講義で男女にかかわらず、地域社会や家庭における立場の意識や、キャリアアップについて考えるきっかけ作りとなりました。当院で活躍されている3名の先生方からもキャリアについてお話し頂きました。最後に、本講義は準備を含め、島根県医師会に全面的にご協力頂きました。紙面をかりて御礼申し上げます。





学生、大学院生、医員及び助教等の 教育表彰を実施しました

3月15日医学部長室において、「ベストチューター賞」、「ベスト教育研修医賞」、「研修医の選ぶベスト指導医賞」、「ベスト看護教育賞」の表彰が行われました。

ベストチューター賞は、チュートリアル教育におけるチューターとして学生の教育効果の向上に大きく貢献した者を表彰するもので、チューターとして参加した学生、大学院生、医員、助教を対象として、チュートリアル教育での学生のチューター評価表を基に集計したスコアが高い3名が選ばれます。

ベスト指導医賞は、卒後臨床研修における指導医として研修医の指導に大きく貢献した者を表彰するもので、研修医を直接指導している大学院生、医員、助教を対象として、卒後2年内の研修医の投票により3名が選ばれます。

ベスト教育研修医賞は、臨床実習における教育研修医として学生の指導に大きく貢献した者を表彰するもので、臨床配属実習の指導をしている研修医を対象として、実習を行った学生の投票により3名が選ばれます。

ベスト看護教育賞は、当院臨地実習における学生の指導に大きく貢献した病棟等を表彰するもので、看護教育を担当する病棟等が選ばれます。

受賞者は次のとおりです。野津雅和助教は、平成23年度、25年度に引き続いての受賞です。

①「ベストチューター賞」

銅山 達哉 (医学科 6年)
原野 真一 (医学科 6年)
梶原 知巳 (医学科 6年)

②「ベスト教育研修医賞」

田邊 淳也
小林 美郷
板脇 綾子

③「研修医の選ぶベスト指導医賞」

本田 学 (膠原病内科 医員)
堀田 尚誠 (呼吸器・化学療法内科 助教)
野津 雅和 (内科学第一 助教)

④「ベスト看護教育賞」

B病棟6階、C病棟8階

